2017 年度　センター試験　政治･経済（本試験）　分 析

全体概況

試験時間　60 分

大問数・解答数	大問数：　4 題　　解答数：34 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化　○ やや難化　●変化なし　○ やや易化　○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加　●変化なし　○ 減少
出題分野の変化	○ あり　●なし
出題形式の変化	○ あり　●なし
新傾向の問題	○ あり　●なし

総評

大問数4題、解答数34問で昨年と変化なし。図や表を用いた資料問題は昨年同様6問であった。内容面では、現代の若者が直面しているテーマ（投票年齢、消費者問題、環境問題、社会保障など）からの出題が多く見られた。形式面では、年代を並び替える問題、リード文の趣旨を踏まえた穴埋め問題などが、一昨年度より復活した。語句と説明文を組み合わせる問題は 1 題に減少した。全体としての難易度は、昨年並と言えるだろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	民法についてのリード文を素材に、政治・経済の各分野を幅広く問う。	28 点	問1のイは、リード文の趣旨を踏まえた穴埋め問題だが、リード文の内容から比較的容易に正答を導ける。問4は、各国の議会の歴史、特徴を問われた問題である。用語の暗記を中心に学んできた受験生に取っては難しく感じたであろうが、丁寧に文章を読解すれば、正答を導くことができる。
第 2 問	南北問題についてのリード文を素材に、政治・経済の各分野を幅広く問う。	24 点	問 7 にある「全逓名古屋中央郵便局事件」はやや細かな知識と言えるが、この言葉が分からなくても他のヒントを手掛かりに解けばよい。
第 3 問	政治全般についてのリード文を素材に、政治の各分野を幅広く問う。	24 点	問 5 は、時事的関心から「投票年齢」に関する選択肢が出題された。問 6 のグラフ問題は難問ではないが、事項の年代整理が出来ていない受験生にとっては、難しく感じたであろう。
第 4 問	通貨制度についてのリード文を素材に、経済の各分野を幅広く問う。	24 点	問 4 は、プライマリーバランスに関する資料問題であった。少々の計算を要する問題であったが、落ち着いて取り組めば正答を導ける。問 6 の年代並べ替え問題は、比較的平易であった。

Copyright (C) 2017 Johnan Prep School